
片割れ失う、片割れ運命壊れる、片割れどう思う？1

黎奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

片割れ失う、片割れ運命壊れる、片割れどう思つ？1

【Zコード】

Z3259P

【作者名】

黎奈

【あらすじ】

片割れ失う、片割れ運命壊れる、片割れどう思う？の続きです。
続きといわばそのままお読みいただけても大丈夫かもしれません。
。

話的には題名どおりですね。

双子の片割れの死に泣き暮らす少女。

それを連れ去る王子・・・みたいなファンタジーです。

今後また短編で続きが出るかもしません。

私の双子の片割れは生まれた日付で命を失った。

生を受けて十四年という長い時を一人は片時もはなれず過ごした。

傍に在ることで互いに生を実感できた。

でも、もう実感することはできない。

互いに支えあつた双子の片割れはもう傍にはいない。

そんなことを思い、何度も泣き悔やんだ。

そうして一週間が過ぎ去る。

毎日毎日あきもせず領地の主の使いがやつてくる。

今日は何故か一人多かった。

「・・・」

私はただその人たちを見つめていた。

何故来るのだろう？私は失つた片割れよりも不吉な存在だというのに。

「悪魔の娘よ、今日は食事をお取りになりましたか？」

主の使いは聞いてきた。

「・・・」

答えられなかつた。

だつて失つた片割れはもういなかから。

食べるのだつて寝るのだつてすべて一緒にだつたのに・・・
一人で食べられるわけがなかつた。

でも・・そうとはいってられないのかかもしれない。

私は悪魔。

悪魔の子。

紫を身に宿す、妖艶な悪魔。

悪魔を宿す私は絶食したつて大丈夫・・のはず。

というか、体が受け付けてくれない。
心も拒絶している。

失つた片割れは天使の子だつた。

生を受けた当時から今の今まで天使も悪魔も蔑まれてきた。

だが、天使が失われた直後悪魔だけを蔑むよになつた。

天使は蔑まれなくなつたのに今は双子の片割れは傍にいない。

私は悪魔、そんなことは分かっているのに何故か心が痛む。

「おい、悪魔の娘」

もう一人の人が私に近づいてきた。

ズキッ・・

心が痛む。

私は魔法使い。

魔法使いには理ことわざがあつた。

言葉には力がある。

むやみに人を蔑んではいけない、ありのままの言葉を受け入れる、
と。

それは理の一つであつた。

「王子・・・」

使いの人気が呟く。

この人が王子・・・

私はその人を見た。

豪華な服装で、髪は金髪、瞳も金色。顔立ちも整っていて凛々しい。

まさに王子とこう呼ぶだ。

・・王子のよつな色をしていたら片割れは失わなかつたかな・・

そう思つとまた涙が出てきた。

頬に涙が伝う。

「な・・、何故泣く！？」

王子は驚いていた。

ひつゝ・・ひつゝ・・

しゃつゝりが出てきた。

「・・・」

溢れる涙は流れ出すと止まらない。

私は懸命に涙をぬぐう。

でも涙は溢れ続ける。

「泣くなッ！・しつかり立てつ・・・」

王子は怒鳴り座り込んだままの私の襟元をつかんで立ち上がりせよ

うとする。

「―――」

体が持ち上がりつても立つほどのは無かつた。

王子が襟元を放すとそのまま倒れこむ。

めまいと衝撃もあつて田の焦点が合わない。

「くそつー惡々しい悪魔だーー！」

王子はそう暴言を吐き、私にばさつと向かで覆つた。

シーツのよがなものだった。

シーツのようなもので覆われたがそれをぬぐうちからも無い。

「・・・・・？」

声を上げる暇もなく私は浮遊感を感じた。

体が浮かんだのだ。

「おい、行くぞ」

王子は使いに声をかけそのまま家を出て行った。

シーツにぐるんだ私を抱き上げたまま。

ゼルフ

床に打ち付けられた。

床はひんやりしている。

牢屋みたい。

いや、どうやら牢屋にぶち込まれたらしく。

「・・・」

とりあえず、乱暴に扱ったコワイ人たちはもついない。

気配も消えていった。

ピカ一

高こうこうにある窓から光が差し込んだ。

私は光のあるところを避け隅に包まって寝た。

その翌朝、きいいい”といつ扉の開く音で目が覚めた。

「おい、悪魔の娘！」

そう呼ばれた。

「・・・」

きのうの・・人だ・・『ワイ・・

私は震える。

「オイツ！聞こえてるのだろウ！－！返事をしろ！－！」

ビクッ・・と私は体をこわばらせる。

「・・・はい』

声までもが震えていた。

「お前はしつているか？

親が領地の主である俺に借金があつたのを。」

「・・・」

物心着く前に死んだ親など私は知らない。

「おいつ！－聞いているか！－！悪魔！－！－！」

王子は叫ぶ。

びくつうひづれ

再び体をこわばらせた。

「へへへと私は頷いた。

怖くて目もあわせられない。

「税金はお前等魔法使いの恩恵に預かる身だから
今まで特例だったが・・これからはそうもいかない。
お前は悪魔だ！！不羈な色を宿す人間だ！！
だから親の借金も税金も働いて納めろ！」

王子は叫んだ。

働いて・・借金を返済・・

すくなからずそれはできそうだ。

山に恩恵を預かる魔法使いならそのぐらいはできそうだ・・・。

「・・はい・・

私は頷いた。

だが、どうしても体も声も震えていた。

牢屋の壁に体をぴったり張り付けこわばらせながらいる。

王子は「ワイ。

「なり、住み込みで俺に仕えろ」

王子の声は幾分かさつきより和らいだ。

「え・・住み込み?・?」

私は聞いた。

金を返す・・なら山でなければ魔法使いは生きていけない。

それが魔法使いの理だ。

「やうだ!」

王子は叫び。

「仕えなくとも・・山で返すお金べらごこ・・つくれますから・・
・・か・・え・・ひ・・・!・?」

どうり――!

王子の腕が壁に当たる。

私はかえらせて・・と叫おうとした。
でもいえなかつた。

「借金を返す意思はあるのだな!――?」

王子は叫んだ。

柔らかかつたはずの口調がいきなり強くなつた。

「わいっ　」

私は「ぐんぐん」と震えながら頷いた。

「なら何故帰るつとある！？」

今のお前は一人など無理だろ？！」

王子は叫んだ。

たぶん王子は分かっていない。

魔法使いの理を。

魔法使いは山に恩恵があるため山にゆく時の恵みをいただぐ」とせ
山なしでは魔法使いは生きていけないことを。

王子は知らないだろ？。

「魔法・・使い・・だから・・つ・・
山で・・・」

びくつ！

言葉が最後までいえなかつた。

王子が怒りの視線でにらんできたからだ。

「あの片割れがいない今！お前は今までどう暮らしてきました！？
一人で泣いてばかりで何もできなかつたであろう？！？」

耳元で怒鳴られる。

「もう・・泣き暮らさないこよつ・・しつかりお金を・・返し・・ます・・・・」

私は震える体を抱きしめながら言った。

ソシテ続けざまに・・

「だから・・・戻り・・かえ・・し・・・・!・?・

どんづ”・・

わっさより強めに壁をたたかれた。

「もつといつ・・!

お前は俺の召使になれ!!

これは命令だ!!

山に帰らずとも借金は返済できるだろー!!
わかったか!!?

王子は射るような視線で私をにらむ。

私・・拒否権は・・ない・・

でも・・山なしでは魔法使いはやっていけない。

「でも・・・・・・」

私は負けじと云つ返そとするが無理だった。

「反論は許さない！！
いいな！！」

そう王子に勝手に言い渡された。

そして王子は私に手を伸ばしてきた。

「ひいっ」

私は壁に強くくっつける。

怖い・・・

ぴたっと伸ばした腕は一瞬止まった。

「チツ、忌々しい悪魔の娘がっ！！」

そう吐き捨て、王子は私をつかみ上げ背負われた。

グワーン”

視界が歪む。

「 - - - - - 」

突然のことと何が起こったか、わからない。

王子はそのまま、私を抱いで牢屋を出た。

そして豪華な一室に入る。

そして床に降りされた。

「俺の名はムクロだ。
お前の名は――」

王子はいすに座り自分の名を言つて私に問おうとするが
王子はいきなり誰かに・・・

「キャー、ムクロ、かわいい子見つけてきたじゃなーいっ！
私、こんなかわいい妹欲しかったのよっ！――！」

と、抱きつかれた。

「ア・・姉貴っ！――？」

王子は驚いた。

そしてその人は今度は私に抱きついてきた。

「キャーかわいい～、私はムクロの姉ローズよ、
ねえ、かわいい貴方は名前なんていうの？」

頭に高い高周波が押し寄せる。

頭痛がした。

「え・・えと、・・その・・
魔法使いは・・本当の名前がいえなくて・・えと・・
便宜上では・・ナギ・・です。」

私は言った。

怯える私と威張る王子、ソシテにこやかな王子の姉、

片割れのいなくなつた一つの歯車に一つの歯車が表れた。

やつやつて運命は新たなものへとつなげていく。

これから私はどうなるのでしょうか？

(後書き)

続きを書こうか書くまいか・・悩むところ。
人気の出具合で決めようかと思います。
ではまた。 see you

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3259p/>

片割れ失う、片割れ運命壊れる、片割れどう思う？1

2010年12月6日01時11分発行